



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

NEWS LETTER

特集

藤森照信さん

INAXライブミュージアムを観る

これからの建築に求められるもの

vol. **07** | 季刊 **春**
2008





[特集]

藤森照信さん INAXライブミュージアムを観る

これからの建築に求められるもの

2007年、数々の建築賞を受賞した土・どろんこ館とINAXライブミュージアム。「土」という存在感ある素材へのこだわりと、やきものの街・常滑から、ものづくりの心を発信する明確な意志を持って生み出された建築は、何を語りかけているのか。建築家・藤森照信さんを迎えて設計者である日置拓人さんを案内人に、ライブミュージアムから、これからの建築を考えてみたい。

[特集] 藤森照信さん INAXライブミュージアムを観る これからの建築に求められるもの

- 02 圧倒的な土の空間。土が這い上がっていく感じがいいですね。
- 04 ぐるりと巡れば、土からタイルへの流れが明確に伝わってくる。
INAXライブミュージアムを観て、これからの建築を考える
必要なのは、「自然」と向き合う視点 藤森照信
- 06 地域の人々の営みを建築に表現する 日置拓人
INAXライブミュージアムが受賞した建築関連の賞

LIVE REPORT

- 07 開催報告
モザイクアートコンテスト&表彰式
企画展 やきもの新感覚シリーズ 第69回

LIVE SCHEDULE

- 08 これからの催し

CONTENTS

INAXライブミュージアム
NEWS
LETTER

vol.07 | 季刊 春
2008

表紙写真

春。桜の花が終わり、ボケやハナミズキが咲き始めました。樹木の新芽も日に日に成長しています。土・どろんこ館のテラスは柔らかな光で満ち、穏やかな時間が流れています。(2008.4.9)

表紙撮影：山口幸一

常滑から*

6

まねき猫通り (美人祈願の猫など)



常滑に美人が増えている。常滑に来る人も一段と美しい人が増えた。まねき猫のご利益は、かくも偉大である(らしい)。美人祈願のまねき猫である。先日は、妙齢のご婦人が猫の顔をなでていたのを見た。年齢80過ぎであつたらうか。若い女性は一緒に写真を撮る。中年女性の観光客グループは猫ごとに大笑いしながら通りすがつていく。

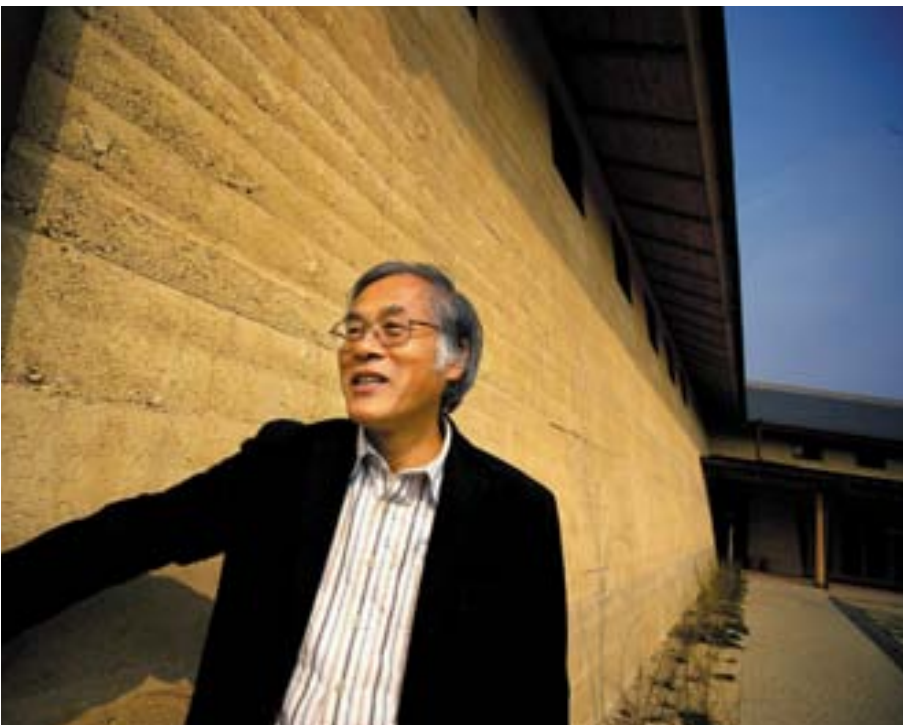
常滑の駅近くに、まねき猫通りが昨年の3月に完成した。猫の数、39体。勝負運、晴天祈願、家運隆盛、ほけ封じなど、ありがたい猫がお迎える。この通りはお客様や地元の人に好評である。老若男女39人の陶芸作家たちが個性豊かに、さまざまな祈りを表現していて、見て歩いて楽しい。今の時代、悩みはいろいろあるが、ぜひ常滑のまねき猫通りを楽しんで、大笑いして帰ってもらいたいと私たち地元人間は考えている。

辻孝二郎

(INAXライブミュージアム 館長)

* INAXが生まれ育った常滑のやきものや土に関わる人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。

圧倒的な土の空間。土が這い上がっていく感じがいいですね。



真っ先に、
版築壁に駆けつける

藤森 わあ、これはいいなあ。土取り場の雰囲気ですねえ。

日置 この版築壁は土・どろんこ館を敷地導入部のアプローチから見

上げたときの最初の見せ場です。そのため、擁壁の版築壁と建物側の敷地に2mの落差をつけています。藤森 土は、混ぜ物なしの自然のものですか。

日置 はい。常滑で「はがね土」と言うんですが、地元の土をいろいろ

る土の表情がいいね。

いろいろ探して、たまたま池の土を手を直している現場でこの土に出会いました。粘土質と砂礫が混じって粒度分布が一番いいんです。ここだけ400t近い土を使いました。

藤森 明らかに木の破片とかが混ざっている。雨に洗われて出てく



ラグシヨベルではがね土を押し込み、ランマーやタンバーなどの機械を使って突き固めていきました。最後に人の手で掻き落として、その後風雨が仕上げてくれました。自然にさらされて表情が変わっていくのが大きな魅力です。

亀裂をみつめて、
愛でる

藤森 こっちの壁はぜんぜん崩れそうにないね。高さはどれくらい？

日置 建物の版築壁は高さが5m。はがね土をベースに砂利と石灰をブレンドしています。構造はRC造で、建物のRC壁を内側に少し倒して、それに沿って版築をつくっています。厚さは下の方が500mm、上に行くほど薄くなって300mm程度。だんだん薄くすることで土の重量に耐えるようにしました。

日置 そうですね。オープンの時、タクトシで駆けつけたら、運転手さんに「あんな亀裂があるのにオープンなのって言われました。藤森 「もっと広がる予定だった」って言ってやればよかったじゃない(笑)。亀裂があっても、当たり前、崩れたら直せばいい、それが土の建築なんですよ。

藤森 こういう亀裂は、含まれていた水が出て行くときひきずられた跡ですかね。



擁壁と外壁の版築

本来なら版築だけで自立した壁ができるが、法規上の問題から構造体を用い、仕上げとしての版築となっている。その厚さは500mm。化粧を超えた存在感を放っている。



左官の技と市民の汗—2つの土の表情

土・どろんこ館内部。伝統的な左官の技を用いてつくられたのが「常滑大壁」。混ぜ物のない土壁なので、傷んでもその部分だけ直せる。もう一つが、市民参加のワークショップでつくられた「白干しれんが」を使った壁。ふぞろいでさまざまな表情を持ったれんがが、ゆるやかなカーブを描いて積み上げられている。



光るどろ玉

土・どろんこ館に鎮座する世界最大級の光るどろ玉。「大理石みたい。これ見ると大理石が土からできたことがわかるな」と藤森さん。



鍛鉄のデザイン

鍛鉄の入りロドアや階段の手摺は、洋鍛冶屋が制作したもの。異なる素材のデザインが土の空間を引き立てている。



土の表現の違いを語る

藤森 「常滑大壁」はどなたがやられたの？

日置 久住有生さん。久住章さんの息子さんです。

藤森 親父、最近やっていないのかな(笑)。室内の感じもいいですね。面白いと思うのは、左官って、数寄屋の大作に合わせて発達して、大工と同じくらい細部に神経質なんです。常滑大壁も竹の網代をヒントにしているんでしょう。繊細ですごい技なんだけれど、そこが土の特質と少しずれるんですよね。乱暴なことをやってはいけない、ひびを入れてはいけない、そうした繊細さと、外の版築壁のような本当に生きた土の感じ。腕を奮ったところと、奮えなかったところ。その面白さがある気がする。

日置 床までチェックした人は、今

まていないですよ(笑)。

藤森 こういう素焼タイプの中では、いちばん土に近い感じがする。すごく自然だね。使ってみたいな。



カラフルタイルのトイレ

「こんなに色があるんだね」と、藤森さんもモザイクタイルの色のバリエーションにびっくり。男性は「森」、女性は「水」をイメージしている。



ぐるりと巡れば、土からタイルへの流れが明確に伝わってくる。

INAXライブミュージアムを見渡してみると

日置 全体をごらんになって、どうでしたか。

藤森 以前来たのはずいぶん前で、世界のタイル博物館を見せてもらいました。当時に比べると建物が整理されて、全体に明るくなったようです。

日置 塀やフェンスで囲わず、街並



屋根つき休憩所

木のテーブルと椅子を置き、来館者が憩える広場に。お弁当持参の人たちが雨の日に濡れないように、屋根を設けた。



施設サイン(SDA賞)

やきものの街・常滑とINAXの企業コンセプトに共通する「ものづくり」にこだわった。ブロンズなどの素材を使い、手づくり感を大切にしながら、だれにでもわかりやすいサインをめざした。



窯のある広場・資料館
煉瓦煙突・石炭窯

登録有形文化財
近代化産業遺産認定



「INAXライブミュージアムを観て、これからの建築を考える」 必要なのは、「自然」と向き合う視点

藤森 照信

特に入り口の土取り場のような

土の空間が良かったですね。僕はずっと、人類にとって建築材料の基
本は木だと思っていたんです。そして最後は木と取り組んでみたいと考えていた。ところが、アフリカ・マリのジェンネに泥の大モスクを見に行ったら変わりました。それは「土」ではないかと。

土は木より本質的です。まず、何よりも身近である。また泥は手に馴染む。木も馴染みますが、手への応答性は、土の方が圧倒的です。日干しれんがなんていうのもね、起源は土・どろんこ館の日干しれんがみたいじゃないか。掘って水を入れてジャボジャボやって、型枠なしてつくったいい加減なものですよ。それを芯にして、同じくらいの量の泥を盛っていくという感

みに溶け込むスケールとしました。閉館時でも、建物以外は地域の人が敷地に自由に出入りできるようなになっています。

藤森 今、こうしてミュージアムを歩いてみると、土からタイルへという流れが、広々とした空間のなかに来ていて実にいいですね。

つまり、土・どろんこ館は、土を掘り出している「土取り場」の感じがありますね。そこから版築の建

物が立ち上がっていく。そして窯がある。さらに世界のタイルコレクションがある。「土」のテーマが加わったことで、全体がすごくわかりやすくなりました。

もともとタイルは土の防御材、土が崩れないように張るものだからね。土からタイルという流れをきちんと見せたので、訪れる人にも土の魅力が伝わっていくのではないかと思います。

じです。

広場に立ってジェンネの泥の大モスクを見ると、地べたの土がずっと延びていく。壁へ、屋根へ。そのどこにも継ぎ目がない気持ちの良さ。そのとき僕は気づいた。「自然界には目地がない」って。目地のあるなしが建築と非建築、自然を分ける境だとすると、泥は中間的なんです。人為的でありながら目地のない唯一の建材は非常に面白い。今、人間が取り組むべき究極の材料は土だと思っています。そこに必要なのは、崩れても風化してもいいんだという感覚です。ひびが入るのが嫌だったら、やりようがないですからね。日本人は基本的に古びたり、ひなびたり、侘びたりという状態を美しいと思う美学を持っています。今の人には「ない」という話もあります。

無垢の木を床に使ってほしいと言われて使ったら、段差があると叱られたとかね。

合板以外は絶対に狂いは出るわけでも、「あたりまえだろう」とは言えないんだよね(笑)。自然素材というのは、もともとそういうもので、絶対におそろいさからくるいろいろな問題がある。しかしそれを超えた良さがある。

今、企業も人も「自然」と言いますが、自然の家とは、暴れて汚れて腐っていく。そういうものと付き合わなくちゃいけないことです。あんまり無菌できれいな状態だけではプリント合板みたいなものから。ちょうど、洗いざらしのジーンズや木綿といった感覚。そういうものが、これからの建築には求められてくるし、そうやっていくんじゃないでしょうか。



藤森照信 ふじもりてるのぶ

1946年長野県生まれ。建築史家・建築家。東北大学工学部建築学科卒業。東京大学大学院建築学専攻修士課程修了。1961年赤瀬川原平氏らと「東京建築探偵団・路上観察学会」を結成。現在東京大学生産技術研究所教授。主な作品に「神長宮守矢史料館」「ニラハウス」「ねむの木子ども美術館」など多数。

地域の人々の営みを建築に表現する

「土・どろんこ館」設計者 日置 拓人



日置 拓人 ひきたくと
1969年神奈川県生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。1995年イタリア政府給付生ローマ大学建築学部在籍。1996年早稲田大学理工学研究科建設工学修士課程修了。現在、南の島工房一級建築士事務所主宰。早稲田大学理工学部建築学科非常勤講師。

「土・どろんこ館」を「どろんこ」か懐かしく「でもどろんこにもない」ものに感じてもらえれば、設計者としてこの上なくうれしい。

館長の辻氏から「我々の未来は、我々の背中にある」と言われた。自分たちの過去を知り考えることで新しい未来が創られる。この言葉は設計しているとき何度となく私の頭をよぎった。ここを訪れる人が、土・どろんこ館を「どろんこ」か懐かしく「でもどろんこにもない」ものに感じてもらえれば、設計者としてこの上なくうれしい。

土・どろんこ館およびINAXライブミュージアムは数々の賞を受賞した。これらの賞の特徴は、単に建築デザインののみを評価したのではなく、企画から運営までを含めた、建物のソフトとハードの両面の総合的な評価であった。これは、運営者、設計者、そして施工者の3者の協同作業が高い評価を得たものだと感じている。

土・どろんこ館の魅力は、なんとといっても外観を取り巻く版築の擁壁である。常滑のかつての土取り場の風景を再現したものである。常滑近郊で採れた土を、何も混ぜ合わせることなく押し固めたもの。ライブミュージアムの敷地には、かつてINAXのタイル工場があり、まさにこの地域で土を採り、窠でタイルを焼いていた。地面を掘り返し、無数のタイルのかけらを発見したとき、海岸で美しい貝を拾った感動と似たようなものを感じた。この気持ち何となく建築に表現しようとしたのが、すべての発端であった。

土・どろんこ館 建築概要

建築主 株式会社INAX
設計者 南の島工房一級建築士事務所
施工 株式会社東海エコン
主要用途 博物館
構造 鉄筋コンクリート造、一部木造
階数 地上2階
敷地面積 1,891.91㎡
建築面積 457.85㎡
延床面積 587.56㎡



INAXライブミュージアムが受賞した建築関連の賞（受賞は2007年）

<p>第12回 人にやさしい街づくり賞 入賞 [愛知県]</p> <p>対象: INAXライブミュージアム、土・どろんこ館</p> <p>評価: 3カ所の駐車場から5つの施設にそれぞれ車椅子でアクセスでき、立体模型案内図などサインは来館者にわかりやすい。土・どろんこ館は、バリアフリーであるだけでなく、来館者をやさしく包み込むような雰囲気を持っている。来館者が憩える広場では、一部に屋根が設置され、来館者に配慮されている。</p>	<p>第15回 愛知まちなみ建築賞 入賞 [愛知県]</p> <p>対象: INAXライブミュージアム</p> <p>評価: 街並みに溶け込むスケール感と、閉館時にも建物内以外は自由に入力できるオープンさがある。土・どろんこ館は、土をテーマに、独特の温みのある風景をつくり出し、「地域における新しい建築文化の創造」「街並みに調和し、魅力的な景観の形成」「魅力と潤いのある空間の創造」のどれをとっても賞に値する。</p>
<p>第39回 中部建築賞 入選 [中部建築賞協議会]</p> <p>対象: INAXライブミュージアム、土・どろんこ館</p> <p>評価: 今回の景観の保存・整備で街の一角が明るくなり、空が広がった気分になる。外部は24時間一般に開放され、和やかな風景をつくっている。土・どろんこ館は外壁・擁壁は版築でつくられ、土のもつ素朴な力が圧倒的な存在感、重量感で迫ってくる。</p>	<p>グッドデザイン賞 入賞 [(財)日本産業デザイン振興会]</p> <p>部門: 建築・環境デザイン部門</p> <p>対象: INAXライブミュージアム、土・どろんこ館</p> <p>評価: 「発見と継承」をキーワードに、ものづくりの心を伝えている。</p>
<p>第41回 SDA賞 サインデザイン奨励賞 [(社)日本サインデザイン協会]</p> <p>部門: 公共サイン部門 システムデザイン</p> <p>対象: INAXライブミュージアム</p>	<p>近代化産業遺産33ストーリー 認定 [経済産業省]</p> <p>対象: 常滑市の窯業(衛生陶器・土管製造等)関連遺産 石炭窯 煉瓦煙突(窯のある広場・資料館)</p> <p>評価: 地域史、産業史を軸としたストーリーを構成し、地域活性化の種となる近代産業遺産として認定。</p>